

2019年9月12日

## 『RUGBY “MATSURI” PROJECT 2019』報告書

### 【概要】

主催：NPO法人 SCIX  
(特定非営利活動法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構)

後援：神戸市

開催日時：2019年9月8日(日)10時～16時

場所：ノエビアスタジアム神戸

趣旨：ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催まで2週間を切り、開催地・神戸市でも、さまざまな事前イベントが開催されるようになり、盛り上がりを見せています。開催都市・神戸、そしてミスターラグビー平尾誠二氏が愛した街・神戸にはラグビーワールドカップ2019日本大会の成功はもちろん、ラグビーの普及発展に尽力する責務があります。そこで、9月8日(日)、ワールドカップ開催直前イベントとして、神戸大会の会場となるノエビアスタジアム神戸にて、応援イベント『RUGBY “MATSURI” PROJECT 2019』を実施しました。大会開催中、多くの方に会場に足を運んでもらうべく、SCIXでも魅力的な企画を考案。  
「ラグビーをしたことがない」「ラグビー大好き!」という子どもから、「ラグビーワールドカップの見どころを知りたい」「日本代表の展望は?」といった大人の方にも楽しんでもらえる内容で、神戸のラグビーファンの拡大に取り組みました。

### ■第『SCIX スペースボールカップ』～未来のラグビー日本代表大集合!～

司会：SCIX事務局 武藤規夫氏

対象：小学生3～6年生

参加者：小学生3～6年生 約110名

場所：ノエビアスタジアム神戸芝生広場

プログラム：10:00～12:00

指導者：SCIXより 武藤規夫氏、高木聡氏、背川恭朗氏  
SCIXラグビークラブ選手

趣 旨： スペースボールはラグビー初心者でもできる、ラグビーの基本がいっぱい詰まったボールゲーム。ラグビー未経験の子どもも含めた、神戸市内の小学校3年生～6年生を対象にスペースボールを体験してもらい、将来のラグビー選手、日本代表を目指すきっかけ作りをしてもらいます。また、2019ラグビーワールドカップに出場する強豪国・20チームの国旗付きビブスを着用しながら対戦してもらい、世界の国々やラグビーを知るきっかけとしてもらいます。

内 容：



台風15号の影響が心配されたイベント開催日。関東方面では交通機関にも影響が出るほどでしたが、幸い神戸を含む関西地方は見事な秋晴れ。参加者らは待ちきれない様子で、受付開始予定時刻よりもかなり早い時間帯から、芝生広場に集合してくれました。受付では参加者全員に、真っ赤なSCIXオリジナルTシャツを配布。嬉しそうに早速そのTシャツに着

替え、張り切っている様子の参加者たち。子どもたちの頑張る姿を応援しようと、保護者の皆さんも大勢詰め掛けました。

まずは、班に分かれて集合、整列。SCIXラグビークラブのメンバーが各班のリーダーになり、子どもたちを誘導します。「早くやろう！早くやろう！」と言わんばかりの子どもたちを制するように、SCIX事務局・武藤氏の開幕を告げる挨拶が芝生広場に響きます。いよいよ第一部がスタート！



はじめに、各班がどの国のビブスを着るか、国決めの抽選を実施。各班のキャプテンが代表で国名が書かれたクジを引きます。「ニュージーランドや！ヤッター！」という声も上がり、国決めの段階から盛り上がる子どもたち。ラグビーワールドカップ優勝3回と、歴代最多回数を誇るオールブラックスことニュージーランドは、子どもたちにも人気ようです。

3、4年生の部は、1班～8班の8チーム編成で、各チーム6～7名で構成。5、6年生の部は9～18班の同じく8チーム編成で、各チーム7～8名で構成。1班から18班の国分けは下記。

<3、4年生の部>

- |    |        |    |          |
|----|--------|----|----------|
| 1班 | イングランド | 2班 | オーストラリア  |
| 3班 | フィジー   | 4班 | アイルランド   |
| 5班 | ウェールズ  | 6班 | ニュージーランド |
| 7班 | ジョージア  | 8班 | フランス     |

### <5、6年生の部>

9班	サモア	10班	アメリカ
11班	トンガ	12班	スコットランド
13班	日本	14班	アルゼンチン
15班	南アフリカ	16班	イタリア



チームごとに各国の国旗がプリントされたビブスが配布され、まずはチームごとにウォーミングアップ&練習を開始。SCIXラグビークラブのメンバーが1チームに2名前後ずつ付く形で、ウォーミングアップや練習をリードします。屈伸やストレッチ、ランニングをするチーム、鬼ごっこのようにかけっこをするチーム、円陣パスをするチーム、スペースボールのルールを説明した上で早速実践練習をするチーム...と学年やチームによって内容は様々。ラグビー初体験の参加者も、ラグビークラブ在籍者と一緒に、のびのびと走り回ります。ルールをしっかりと理解してもらうために練習試合を行った後、再度集合し、武藤氏より試合方式を説明。「優勝するのは僕だ！私だ！」という表情で子どもたちが真剣に聞き入ります。

それぞれの部の8チームを4つずつに分け、A、Bの2ブロックに分かれて総当たりの予選リーグを実施。その後、勝ち点制で各ブロック上位2チームが決勝トーナメント進出。4チームで決勝トーナメントを実施し、優勝チームを決定。1ゲーム6分、1チームあたり4試合から5試合することになります。



コーンで区切られた8つのコートに散らばり、試合開始！学年や、ラグビー経験によっては、ルールがきちんと飲み込めていない様子はあるものの、なんとかボールを繋ごうとするひたむきさに、周りで見守る大人たちや、試合をサポートするSCIXラグビークラブのメンバーも心打たれ、笑顔になります。一方で、高学年にもなると、華麗なステップで相手を交わすシーンも見られ、「うまっ！」という声も漏れ聞こえる場面も見られました。

予選3試合が終了し、決勝トーナメント進出の各4チームが決定。5、6年の部では、日本チームが見事決勝トーナメント進出。日本チームが8強に残る展開は、実際のワールドカップでも期待したいところです。

準決勝以降は、予選リーグ敗退チームが周りで観戦するので、ギャラリーの声援もあり一段と盛

り上がります。3、4年の部準決勝のイングランド vs フランス、フィジーvs ジョージア、5、6年の部準決勝のサモア vs 日本、スコットランド vs 南アフリカの試合が一斉にキックオフ。決勝進出目指して、各コート白熱した試合が繰り広げられました。6分を知らせるホイッスルが吹かれ、ノーサイド。3、4年の部決勝進出は、フランスとジョージア。5、6年の部決勝進出はサモアと南アフリカに決定。



14 チーム、およそ 100 名の参加者と保護者らが見守る中、まずは3、4年の部の決勝戦。両チームのメンバーがコート中央に整列。武藤レフリーの合図により一礼し、試合開始。3、4年生とはいえ、さすが決勝戦。パス、タッチ、ラン...と互いに譲らないプレーで見応えがあります。6分の激闘の末、ジョージアが勝利。

続く5、6年の部決勝は、見事な連携パスに、華麗な独走トライ、ゴールライン

間際のタッチなど、ギャラリーがどよめく好プレーが続出。レベルの高さがうかがえ、未来の日本代表選手がここから生まれるかも!?と期待に胸が膨らみます。ナイスゲームの末、勝ったのは南アフリカ。

感動と興奮の冷めやらぬ中での表彰式。武藤氏から各部の優勝チームが発表され、前に出るチームメンバー一同。ミニレブリカボールが優勝チームのメンバー全員に贈呈され、ミニ優勝カップがチーム代表者に授与されました。「暑い中怪我もなく、元気に走り回って楽しんでくれてありがとうございます」。武藤氏の挨拶により第一部閉幕。参加者全員で記念写真を撮り終了となりました。

当日は、35 度を超える猛暑日。こまめに水分補給や休憩をとりながら進行したことで熱中症などの病人もなく無事に遂行することができました。暑い中大勢の方にご参加いただき、ありがとうございました。



←優勝チーム記念撮影



↑ 第1部参加者全員で記念撮影

## ■ 第2部

『ラグビーの魅力が大いに語ろう!』～神戸のラグビー元日本代表大集合!～

司 会 : 村上晃一氏 (ラグビージャーナリスト)

ゲ ス ト : 木津武士氏 (前ラグビー日本代表 日野レッドドルフィンズ)

平尾剛氏 (元ラグビー日本代表・神戸親和女子大学教授)

参 加 者 : 約40名

場 所 : ノエビアスタジアム神戸内ラウンジ

プログラム : 14:00～16:00

趣 旨 : 世界三大スポーツイベントの一つと言われるラグビーワールドカップ。それがどれほど凄い舞台なのか?神戸にゆかりのある元日本代表をゲストにお迎えし、ラグビー解説でもおなじみのラグビージャーナリスト・村上晃一氏と共に、ラグビーの魅力、そしてワールドカップの展望などについて大いに語り合ってください。ラグビー観戦初心者からラグビー通までも楽しめるトークで、ラグビーワールドカップ開幕秒読み段階をさらに盛り上げます。

内 容 :



午後からの第2部は、ノエビアスタジアム神戸内にあるラウンジでのトークショー。SCIX 理事・美齊津氏の挨拶により開幕。司会を務めていただくラグビージャーナリスト・村上晃一氏と、ゲストの二人、ラグビー元日本代表の木津武士氏、平尾剛氏を大きな拍手で迎え入れます。

冒頭のテーマは、イベント開催日の前々日に開催された、ワールドカップ前最後のテストマッチとなる日本代表-南アフリカ戦について。「一昨日の試

合をご覧になった方？」との問いかけに、会場の参加者ほぼ全員が挙手。トークイベントに参加する方々なので当然と言えますが、目前に迫るビッグイベントへの注目度、日本代表への期待度がうかがえます。

「わかってはいたけど、南ア強かったですね～」と登壇している三者が口を揃え、その道のプロたちさえをも唸らせる南アフリカの強さを、参加者たちも改めて痛感したのではないでしょう。ご存知の通り、結果は7-41。惨敗、完敗とメディアでは言われていますが、そんなに悲観する必要はないと、この点についても三者が同調。自身もフォワードを担う木津選手は「スクラムはしっかり組んでいた」と、世界的に見ても体が大きく、強固なディフェンスを誇る南アフリカ相手にスクラムは互角だったと評価。「キック処理とラインアウトが課題。既にチーム内でもその点についてはミーティングをしているとメディアに談話があった」と平尾氏が期待も込めて展望を語ります。

「ラインアウトのコツ、意識していることは？」と聞かれ、「相手を見るといつもと違う感覚で（スローインのボールを）放ってしまうので、南アのように相手が大きい場合は相手を見ずに投げる」と木津氏。ラインアウトが話題に上がった流れで、4年前のワールドカップイギリス大会・南アフリカ戦に話が及びます。奇跡の大金星と言われたあの試合、そしてあの決断の場面はラグビーファンなら誰もが知っている



かと思います。その決断の場面について、木津氏がコメント。「あの場面でラインアウトを選択すると、（スローインのボールを）自分が放ることになるので。あそこでボールが曲がったりしてミスったら終わりじゃないですか。だから食い気味でリーチ（・マイケル）にスクラムって言いました（笑）」。奇跡の勝利に隠されたリアルな舞台裏を知り、会場が爆笑の渦に。

4年前の奇跡をもう一度！という結果には至りませんでした。この4年間でティア1チーム（世界ランキングとは別にカテゴリー。ティア1には「ザ・ラグビーチャンピオンシップ」の南半球4カ国と、「シックス・ネーションズ（欧州6カ国対抗）」の6カ国の計10カ国を指す）全てと対戦。これはかなり自信になったはず」と村上氏。日本代表の活躍や、優勝候

補についてなど、ワールドカップ開幕に向け三者から様々な展望が語られました。

その後話題は、ラグビー独特の文化について。熊谷で開催された日本代表-南アフリカ戦で、観客が南アフリカ国家の歌詞カードを持ち、一緒に国家を歌っていたシーンを引き合いに「ノーサイド精神」にまつわる実体験やエピソードが披露されます。レフリーに4年前のワールドカップイギリス大会で木津選手が経験したロッカールームでの話や、現地の人たちからの祝福の言葉など…。この「ノーサイド精神」に代表される素晴らしいラグビー文化を今後も継承し、他競技へも広く波及させたいと強調。



その後も、話題は多岐に渡ります。日本ラグビー協会・清宮氏主導によるプロ化構想や、選手のセカンドキャリア問題、木津選手所属の日野自動車本拠地・日野市で進められている日野市推進スポーツ計画、間もなく最終回を迎える話題のドラマ「ノーサイドゲーム」出演の裏話…。笑いも交えたトークと興味深いお話で2時間があつ

という間に経過。参加者からの質疑応答の後、「次のワールドカップ出場を目指します！」という木津選手の力強いコメントで第2部も閉幕しました。今回もたくさんの方にご参加いただき感謝申し上げます。次回はワールドカップ終了後、来年1月の開催を予定しております。次回もたくさんの方のご参加お待ちしております。

#### ■第1部/第2部共通 スペシャル企画

『ノエスタで対戦するチームにメッセージを贈ろう！』

趣旨：ラグビーワールドカップ神戸開催では、会場となるノエビアスタジアムで下記4ゲームが組まれています。そこで出場する8か国の国旗に、神戸の小学生たちに「がんばれメッセージ」を寄せ書きしてもらい、神戸市内の公共スペースに掲示してもらおう予定です。小学生たちにはワールドカップをきっかけに、海外の国々にも興味を持ってもらい、出場8か国との交流の一環になればと考えています。

イングランドーアメリカ  
スコットランドーサモア  
アイルランドーロシア  
南アフリカーカナダ

内 容 :

第1部、第2部、それぞれの終了後、参加者たちには、イングランド、スコットランド、アイルランド、3つのビッグサイズの特製国旗に応援メッセージを書き込んでもらいました。「がんばれ!」という、子どもたちの元気いっぱいの文字や、日本のラグビー漫画のタイトルにもなっている「ALL OUT!」(力を出し尽くせ!)など、沢山のメッセージが書き込まれました。

これら3か国の国旗だけでなく、他の5か国の国旗と合わせて、後日、SCIXが神戸市内の小学校を可能な限り訪問し、お昼休みなどの時間を利用して、さらに沢山の応援メッセージを記入してもらいます。その後、神戸市へ寄贈(予定)。神戸の小学生たちと出場国との交流のきっかけとなることを期待し、活動を続けて参ります。



↑スペースボール終了後、全員で寄せ書きを。



↑第2部参加の皆さんもメッセージを。

以上